

30年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 4月1日～ 30年 4月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 18.8	△ 25.0	△ 25.0
	マツ	△ 44.4	△ 38.9	△ 27.8
	広葉樹	0.0	△ 20.0	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	14.3	0.0	0.0
	マツ	0.0	△ 6.3	△ 12.5
	広葉樹	△ 5.6	△ 16.7	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 18.8	△ 37.5
	マツ	△ 44.4	△ 44.4	△ 38.9
	広葉樹	△ 5.0	△ 15.0	△ 25.0

・チップ用国産原木の入荷動向は、スギ・ヒノキ、マツは3カ月連続減少。広葉樹は4月の横ばいから5月、6月は減少に。
・スギ・ヒノキの消費動向は4月の増加から5月、6月は横ばいに。広葉樹は3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも在庫動向は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ	6.3	6.3	6.3
マツ類	5.6	5.6	6.3
広葉樹	10.0	10.0	5.0

・チップ用国産原木の購入価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ、マツ類の仕入動向は、システム販売の終了により減少が見込まれる。広葉樹は、季節的要因により増加。森林再生事業材の入荷により増加が見込まれる。在庫はスギ5.5→6.0カ月、マツ2.0→2.0カ月、広葉樹1.5→2.0カ月（東北）。
・4月から八戸市内のバイオマス工場が稼働することにより、今後、原木入荷が減少する見込み（東北）。
・針葉樹在庫は1カ月分しかなくなった（関東）。
・伐採が本格化するまでの間は、大きな入荷はない状況。翌月以降徐々に入荷は上向いていくと予想。製紙会社が安定的に引き取りを行っていることから消費は横ばい（中部）。
・仕入、消費、在庫動向とも変動なし（中国）。
・天候も良くなり山林業務も安定してきた。スギ・ヒノキの仕入、消費動向は4月はやや増加、翌月、翌々月は横ばい見通し。在庫は4月やや増加、4月、5月は横ばい見通し（四国）。
・冬期間に山で積み上げられていたチップ用材の搬出が始まり、当月、翌月は針葉樹、広葉樹ともに入荷が増えてきそうだ。6月は梅雨入りするので減りそうだ。例年5月は製紙会社の点検月に当たるが、別土場でのチップ受入れを予定されているため、それほどの減産にはならない模様。チップ生産は順調だが、丸太入荷も多いため在庫は積み増しになると思われる（九州）。
・4月も取引素材業者からの広葉樹原木入荷が少ない状況が続く。広葉樹原木の安定確保が難しく、消費・在庫は少ない状況で横ばい（九州）。

(原木価格)

・バイオマス燃料需要の増加に伴い上昇。システム材、森林再生事業の間伐材も価格上昇（東北）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変動なし（中国）。
・価格変動なし（四国）。
・横ばいで変動なし（九州。）

30年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
生産動向	スギ・ヒノキ	7.1	0.0	0.0
	マツ類	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 11.1	△ 16.7	△ 16.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	18.8	6.3	0.0
	マツ類	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 40.0	△ 40.0	△ 33.3
	マツ類	△ 42.9	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 25.0	△ 31.3	△ 25.0

・スギ・ヒノキ木材チップの生産動向は4月の増加から5月、6月は横ばいに。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は4月、5月の増加から6月は横ばいに。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの価格動向はスギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキおよび広葉樹は原材料の入荷増に伴い出荷やや増加。(東北)。
- ・製紙用の生産はほとんど変わらず(東北)。
- ・製紙用チップの需要が高止まりで安定しているため、生産も好調に推移している。出荷は製紙用チップ需要が高止まりで安定している。チップ材の入荷が落ち込んでいるので在庫は減少してきている(中部)。
- ・仕入やや増加見通しにて、生産・出荷動向も当月やや増加見通し。翌月、翌々月も仕入動向と同じで横ばい見通し。当月の生産やや増加分出荷もやや増加につき、在庫は3カ月連続横ばい推移(中国)。
- ・製紙用、燃料用ともにフル生産に近い状況。原木入荷が順調なため計画通りの出荷ができる。チップ在庫は、弊社は持たない(九州)。
- ・広葉樹原木の確保が難しく、生産・出荷は少なく横ばい状況。当月のチップ在庫はゼロ(九州)。

(木材チップ価格)

- ・チップ価格変動なし(四国)。
- ・チップ価格変化なし(九州)。